

大学向OSSの翻訳に適用する 共通翻訳メモリの開発と 国際コミュニティへの展開

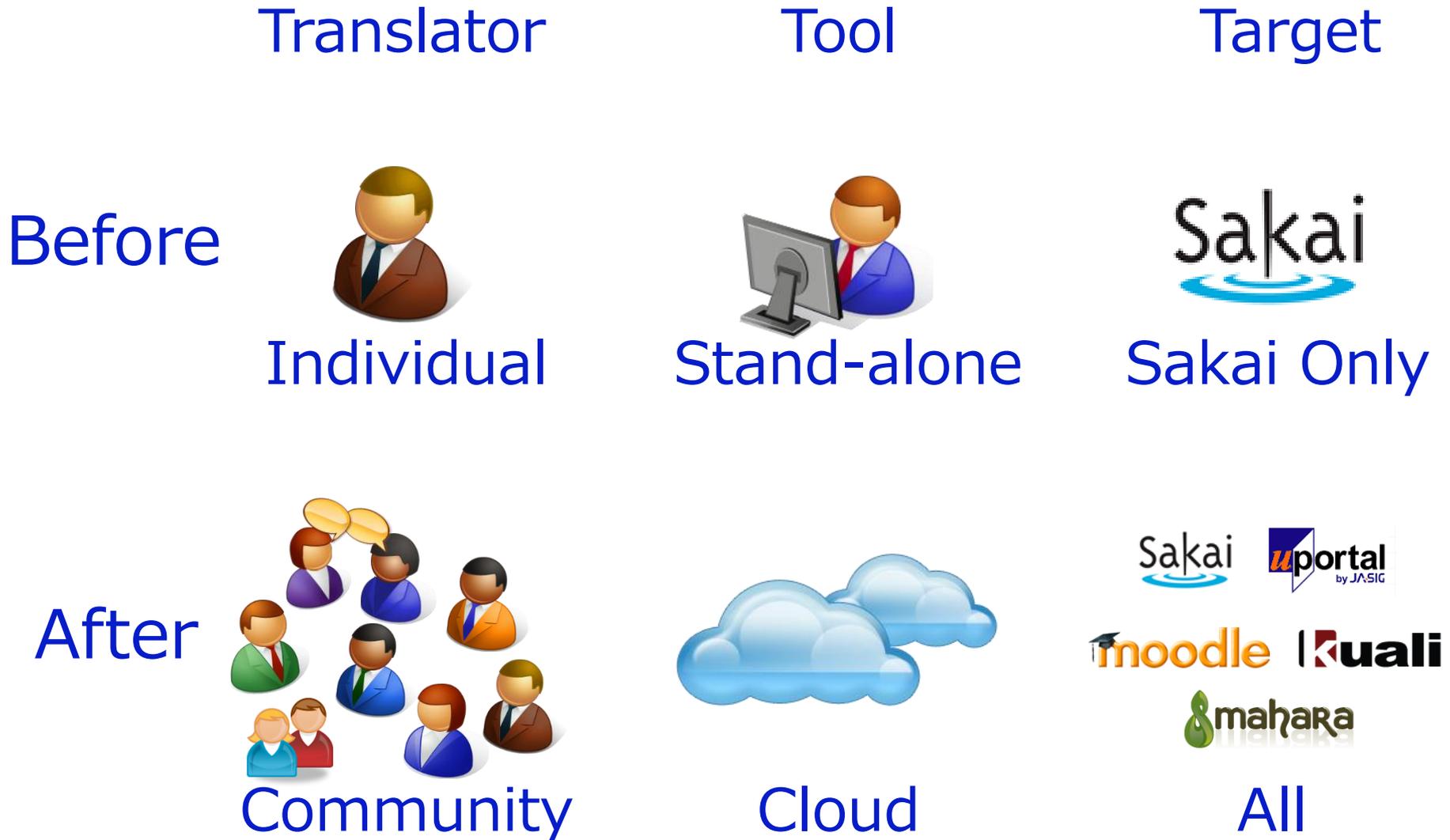
2013年8月21日

情報メディア教育研究センター
常盤 祐司

yuji.tokiwa.dc@hosei.ac.jp

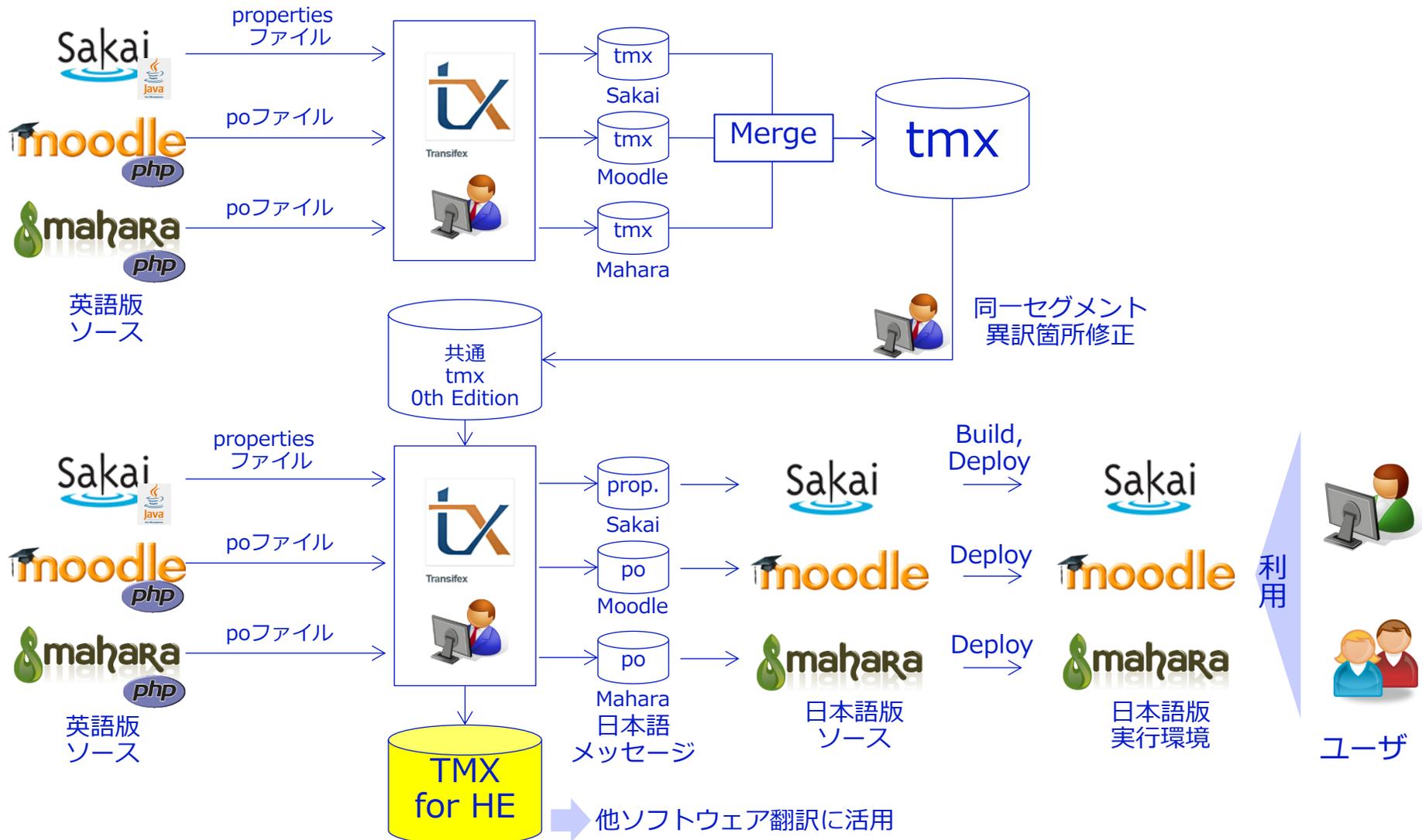
Motivation

Sakai CLEを日本語に適用するためのコミュニティによる組織的な翻訳は、事実上2012年8月に開催された Ja Sakai Unconferenceから開始された。このカンファレンスではこうした翻訳方法をSakaiの翻訳だけに留めず、日本の大学にて利用されるOSSすべてに適用することが提案された。

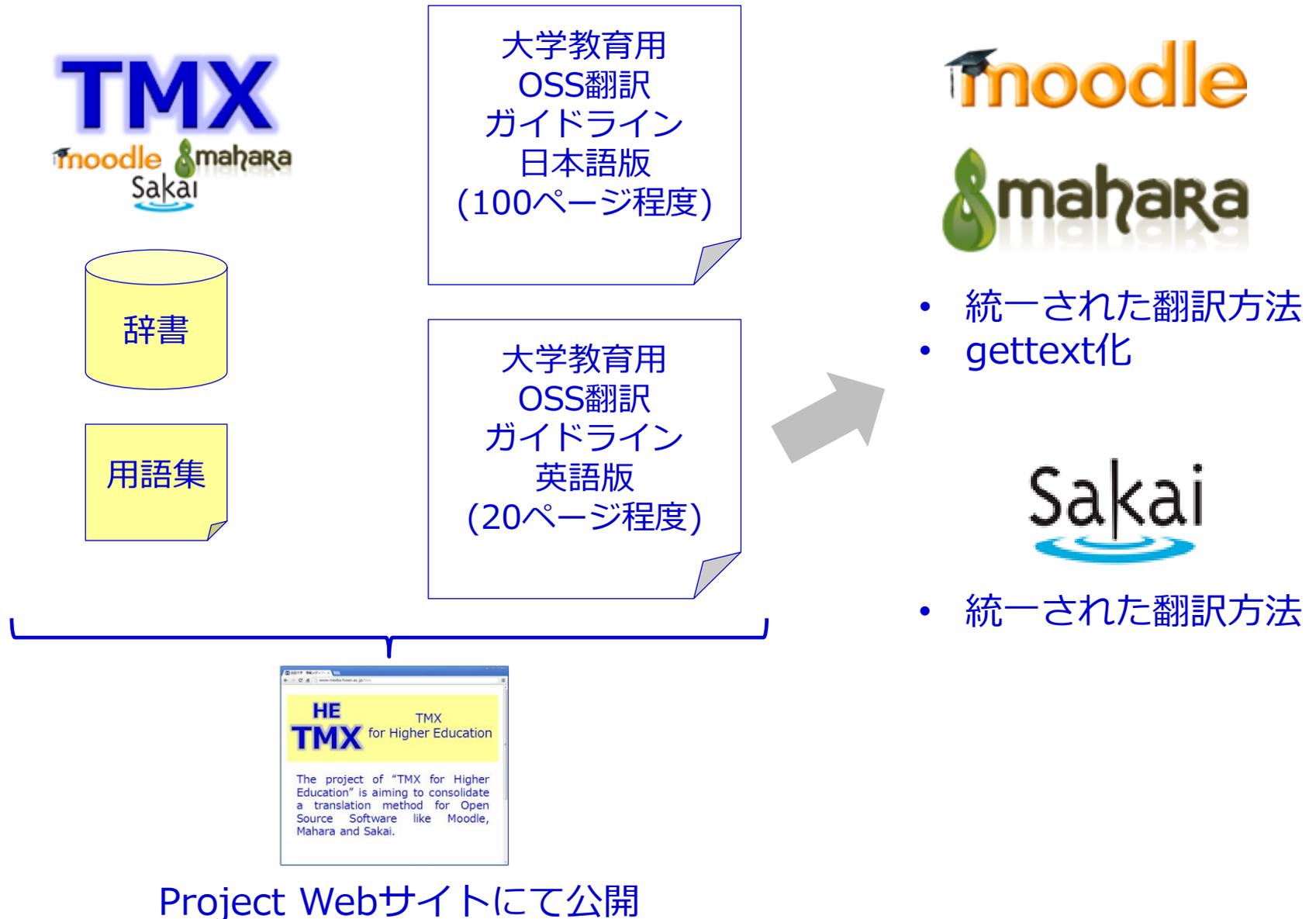


大学向OSSの翻訳に適用する共通翻訳メモリの開発と国際コミュニティへの展開

日本の大学教育用ソフトウェアの日本語化プロセスを確立するための共通翻訳メモリの開発を行うとともに、この手法を国内外のコミュニティに提案することを目的とする。



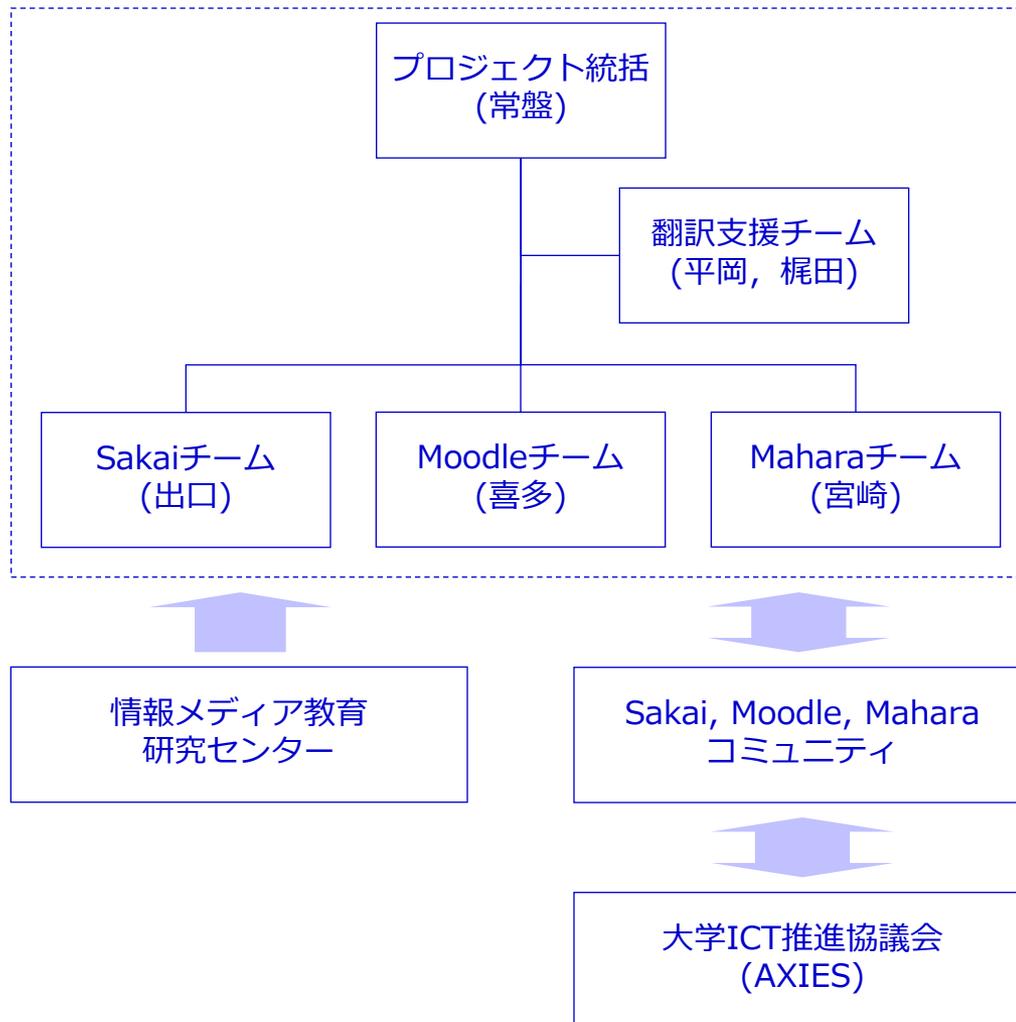
2015年度末におけるあるべき姿



プロジェクト概要

	年度目標	Sakai2.9	Moodle2.3	Mahara1.5
2013	実証実験(AsIs)	<ul style="list-style-type: none"> • SakaiとMaharaが共存する環境にて実証実験を行う。(教員3,学生3) 	<ul style="list-style-type: none"> • MoodleとMaharaが共存する環境にて実証実験を行う。(教員3,学生3) 	
	最新バージョン用 翻訳メモリ開発	<ul style="list-style-type: none"> • 翻訳メモリおよびpropertiesファイルを翻訳システムにImportする。 • 翻訳を行う。 • 翻訳メモリをExportする。 	<ul style="list-style-type: none"> • 翻訳システムに合致するgettext形式のファイルを生成する。 • 翻訳システムにpotファイルをImportする。 • 翻訳を行う。 • 翻訳メモリをExportする。 	<ul style="list-style-type: none"> • 同左
	コミュニティへの提案	<ul style="list-style-type: none"> • 国内外各コミュニティの年次カンファレンス等にて国際化について提言を行い、コメントを得る。 		
2014	統一版翻訳メモリ開発	<ul style="list-style-type: none"> • テキストマイニングで抽出された英語、日本語それぞれ100頻出語が含まれる翻訳単位について各システムの翻訳を比較するツールを作成する。実証実験の結果を踏まえ、このツールを用いて同一翻訳単位に対し複数の翻訳がある箇所を統一し、Sakai, Moodle, Mahara用の翻訳メモリを統合した共通翻訳メモリを作成する。 		
		<ul style="list-style-type: none"> • 共通翻訳メモリを翻訳システムにImportする。 • 翻訳を行う。 • 2013年版の翻訳と比較する。 	<ul style="list-style-type: none"> • 同左 	<ul style="list-style-type: none"> • 同左
	コミュニティへの提案	<ul style="list-style-type: none"> • 差分箇所について用語に関して造詣の深い教員および事務職員によるレビューを行う。 • コメントを踏まえて翻訳メモリを統合し「大学向OSS共通翻訳メモリ(日本語版)」を開発する。 		
2015	実証実験(評価)	<ul style="list-style-type: none"> • SakaiとMaharaが共存する環境にて実証実験を行う。(教員3,学生3) 	<ul style="list-style-type: none"> • MoodleとMaharaが共存する環境にて実証実験を行う。(教員3,学生3) 	
	辞書・用例	<ul style="list-style-type: none"> • 同一語に対し複数の翻訳候補のある上位100語程度に対し辞書・用例を作成する。 		
	シンポジウム開催	<ul style="list-style-type: none"> • 各コミュニティからi18nのリーダーを招き、教育用OSSの国際化をテーマとしたシンポジウムを開催する。 		
	コミュニティへの貢献	<ul style="list-style-type: none"> • 共通翻訳メモリにより翻訳した日本語箇所をSakai, Moodle, Maharaに反映する。 		
	翻訳ガイドブックの作成	<ul style="list-style-type: none"> • 日英版の翻訳ガイドブックを作成する。(50ページ程度) 		
	成果とりまとめ	<ul style="list-style-type: none"> • 論文として成果を取りまとめると共に、Webサイトにてプロジェクトの成果である統一翻訳メモリ最終版、辞書および翻訳ガイドブックを公開する。 		

体制



2013年度プロジェクト計画

Created on 2013.4.8
Updated on 2013.8.14

	年度目標	Sakai2.9 名大	Moodle2.3 熊大	Mahara1.5 法大	Infra 京大
2013	実証実験(AsIs) *違和感を感じる 箇所の抽出 (1H: 4~9月) (2H: 12~3月)	<ul style="list-style-type: none"> SakaiとMaharaが共存する環境にて実証実験を行う。(教員3,学生3@名大) 	<ul style="list-style-type: none"> MoodleとMaharaが共存する環境にて実証実験を行う。(教員3,学生3@熊本大学) 		
		<ul style="list-style-type: none"> Sakai環境の提供 	<ul style="list-style-type: none"> Moodle環境の提供 	<ul style="list-style-type: none"> Mahara環境の提供 	
	最新バージョン用 翻訳メモリ開発	<ul style="list-style-type: none"> 翻訳メモリおよびpropertiesファイルを翻訳システムにImportする。 翻訳を行う。 翻訳メモリをExportする。 	<ul style="list-style-type: none"> 翻訳システムに合致するgettext形式のファイルを生成する。 翻訳システムにpotファイルをImportする。 翻訳を行う。 翻訳メモリをExportする。 	<ul style="list-style-type: none"> 同左 	<ul style="list-style-type: none"> Transifex利用の手引き作成(2Q: 7月) 済 翻訳Workshop(8月@法大or京大) 済
		<ul style="list-style-type: none"> 最新版SakaiのpropertiesファイルをTransifexにて翻訳し、翻訳メモリを得る。(3Q: 10~12月) 	<ul style="list-style-type: none"> po形式への変換ツール開発(2Q: 7~9月) 最新版Moodleから抽出したpoファイルをTransifexにて翻訳し、翻訳メモリを得る。(3Q: 10~12月) 	<ul style="list-style-type: none"> po形式への変換ツール開発(2Q: 7~9月) 最新版Maharaから抽出したpoファイルをTransifexにて翻訳し、翻訳メモリを得る。(3Q: 10~12月) 	<ul style="list-style-type: none"> Unconference 2012で作成したTMXを用いて最新版SakaiをTransifexにて翻訳し、各グループが翻訳を通じて翻訳メモリを開発するための方法を確立する。済 Transifexと交渉し無償低価格で提供してもらう。(1Q: 4~6月) 済
	コミュニティへの 提案	<ul style="list-style-type: none"> 国内外各コミュニティの年次カンファレンス等にて国際化について提言を行い、コメントを得る。 海外: Apereo Conference 済(7月), MaharaUK20 済(7月), MRC (10月) 国内: AXIES(12月), JaSakaiカンファレンス(2014/3月), MoodleMoot (2014/3月) 			